

2. 集計結果

番号	頁、見出し等	意見	回答	修正の有無
1		国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの導入を希望する。	P 1 9 2. 資料・情報提供サービスの充実、P 2 4 4. 図書館の効率的・効果的な運営 1) 図書館システムの充実と環境整備のなかで、図書館では、インターネット情報資源を含め、多様な情報資源の提供に努めることが求められています。これらを踏まえ、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの実施については、現在、図書館では、実施に向け調整中です。	なし
2	P 2 0 5) 社会環境・出版環境の変化への対応 P 2 3 6) 図書館を利用しにくい人への図書館サービス P 2 4 1) 図書館管理システムの充実と環境整備	他の公共図書館の普及状況を踏まえる必要がなぜあるのか。横並びはやめ、他に先駆けて電子書籍のコンテンツを増やしてほしい。同じ本を2冊買うならば、1冊は電子書籍でよいのでは。それが図書の回転率を高めることになり、また、忙しくて図書館に行けない人の利用を進めることにはなるのではないか。	文芸書や実用書等については、リクエスト希望が多く、電子書籍としても出版されているタイトルが多くありますので、将来的には、電子書籍と紙媒体で提供できるよう考えていく予定です。	なし
3	P 2 0 4) 利用につながる情報発信の充実 P 2 3 6) 図書館を利用しにくい人への図書館サービス P 2 4 1) 図書館管理システムの充実と環境整備	他自治体の図書館の相互貸借について、いまだ紙に記入し窓口で受付しているが、インターネットで予約できるようにすべき。コロナの環境を考えると窓口業務の効率化を進めるべき。それが図書館を利用しにくい人へのサービス向上につながる。	現在、未所蔵資料については、「リクエストカード」への記入・提出をとおり、リクエスト依頼を受けています。リクエスト件数は、年間約2万点以上あり、自館による購入や他公共図書館からの相互貸借により、資料提供しているところです。リクエストカードのインターネット予約について、専用の予約フォームを設定することで対応可能と考えられますが、資料提供には予算と職員体制が課題となります。これらを考慮しながら、リクエストカードのインターネット対応を考えていきます。	なし
4	P 2 3 6) 図書館を利用しにくい人への図書館サービス	今年から予約本の取置き期間が2週間から1週間に減らされた。仕事をしていると1回の休みに所用があって図書館に行けない場合には受け取ることができない。続けて予約が入っていない図書については、2週間とすべき。また、可能であれば、駅に返却ボックスを設置できると図書の回転率が上がるのではないか。	より、多くの利用者に図書館資料を有効利用していただくために、令和元年(2019年)6月から、予約資料の取置き期間を2週間から1週間に変更させていただきました。ご理解をお願いします。	なし
5	P 2 3 3) 障害のある人への図書館サービス	3) 障害のある人への図書館サービスについての記載が、身体障害の方を対象とした表現になっているのではないか。	記載に際しては、障害の種類や程度を前提とすることなく、広く障害のある方に向けた記載内容にしています。なお、平成30年(2018年)8月から、図書館では、発達障害や知的障害、日本語が得意でない人でも読書が楽しめるように工夫された「LLブック」を導入していますので、LLブックについての記載を追加します。	あり